

タイトルタイトルタイトル  
タイトルタイトルタイトルタイトル

仙台 心理

〇〇大学〇〇学部

aaaaaaaaa@aaa.aaaaaa-u.ac.jp

# 背景

- A国の子どもたちにとって(も), スポーツや運動遊びといった身体活動は, 心理社会的健康の維持・増進に重要な役割を果たしている。
- 特に, 被災地, あるいは, 災害が起こりやすい地域(たとえば, 今回の調査対象である, 活火山周辺地域)においては, 心理的ストレスも高く, 心理社会的健康の維持・増進は, 喫緊の課題である。
- 一方で, このような地域では, 現代スポーツができる環境が十分に整っていない場合が多い(用具がない/少ない, 整備されたグラウンドがない, 等々)。このような環境では, 専門用具をあまり必要としない伝統的な運動遊びが重宝されているようである。

# 目的

伝統的運動遊びの経験が、A国の災害多発地域に住む子どもたちの心理社会的側面の状態とどのように関係しているのかを検討すること。

# 方法

## 調査対象者

〇〇〇〇〇地域の10小学校のN年生, 500名  
(女子250名, 男子250名)

## 調査時期および調査手続

時期: 20XX年Y月

手続: 担任教師に依頼し, 各学校で実施

## 調査内容

3種類の測定尺度(AAS, BbBSY, CCCS)  
「伝統的運動遊び」と「現代スポーツ」の経験

- **AAS (Aaaaaaa Aaaa Scale) (Anonymous, 2017)**

4下位尺度, 各10項目, 4件法(0~3)

○○○○○○, □□□□□, △△△△△, ×××××

- **BbBSY (Bbbbbbb and BBBB Scale for Youth)**

(Tokumei, 2011)

2下位尺度, 22項目と15項目, 4件法(0~3)

○○○○○○○○○○○○○○○,  
×××××××××××××××

- **CCCS (Cccccccc Ccccc and Ccccc Scale)**

(Factorx, 1995)

3下位尺度, 各14項目, 4件法(0~3)

○○○○○, □□□□, △△△△

# •「伝統的運動遊び」と「現代スポーツ」の経験

下記の種目について、実施頻度を5件法で回答

0:したことがない

1:年に1～2回

2:月に1～2回

3:週に1～2回

4:ほぼ毎日

## •伝統的運動遊び

**Gobak Sodor (Mangrove, Go Back Through the Door) (1.85)**

**Lompat Tali (Jump and Rope) (1.71)**

**Bentengan (Fortress) (1.35)**

**Enggrang (Walking on Stilts) (1.16)**

**Petak Umpet (Hide and Seek) (2.53)**

**Kasti (Like Baseball) (2.52)**

## •現代スポーツ

サッカー(2.62)

バドミントン(2.18)

バレーボール(2.44)

バスケットボール(1.84)

自転車(2.95)

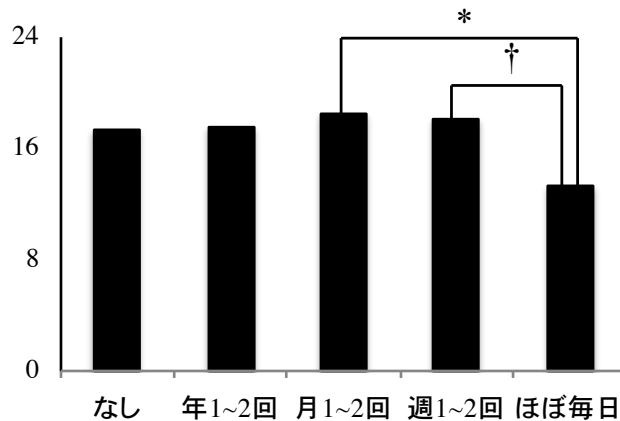
スイミング(1.86)

※カッコ内の数値は、実施頻度評定値の相加平均

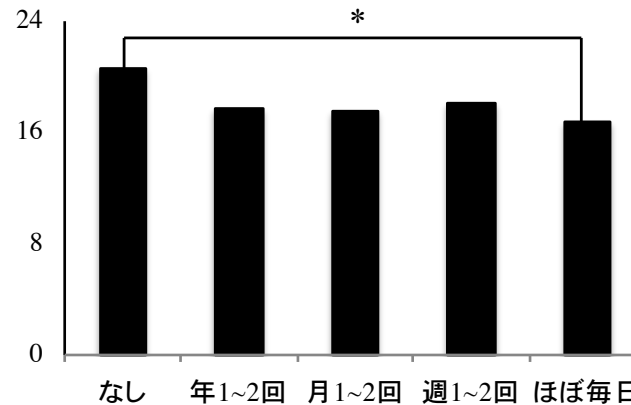
# 主な結果



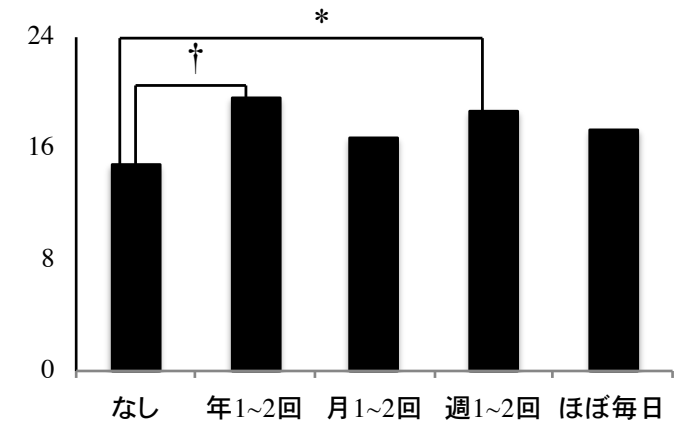
と運動遊び・スポーツの実施頻度との関係



**Bentengan**



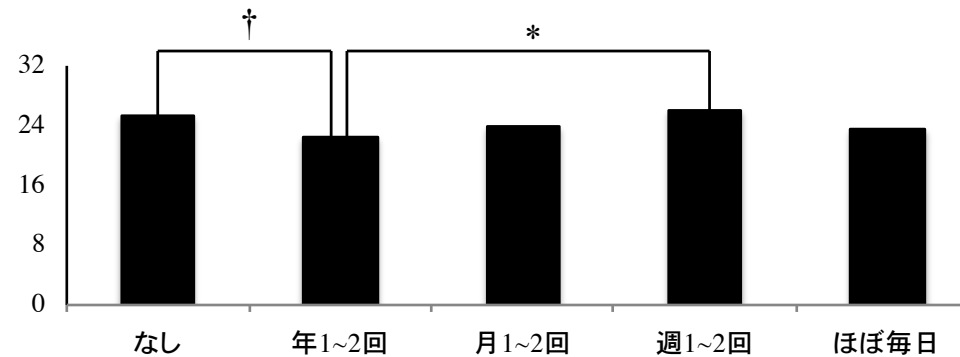
**サッカー**



**自転車**



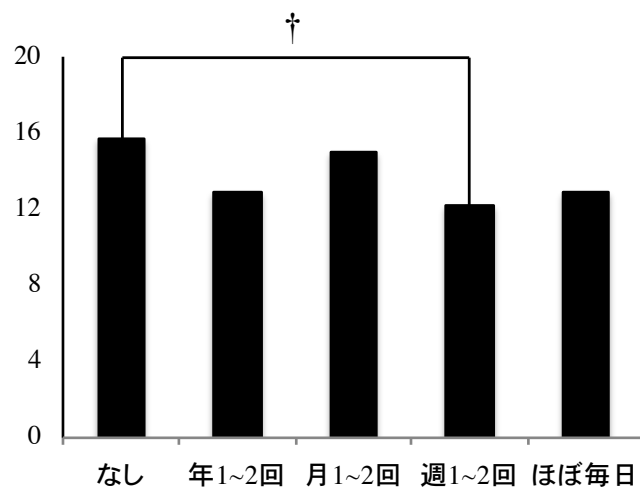
と運動遊び・スポーツの実施頻度との関係



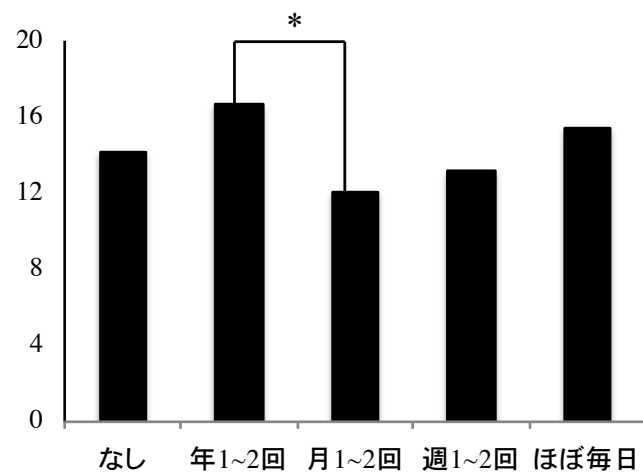
**Bentengan**

\*  $p < .05$   
†  $.05 < p < .10$

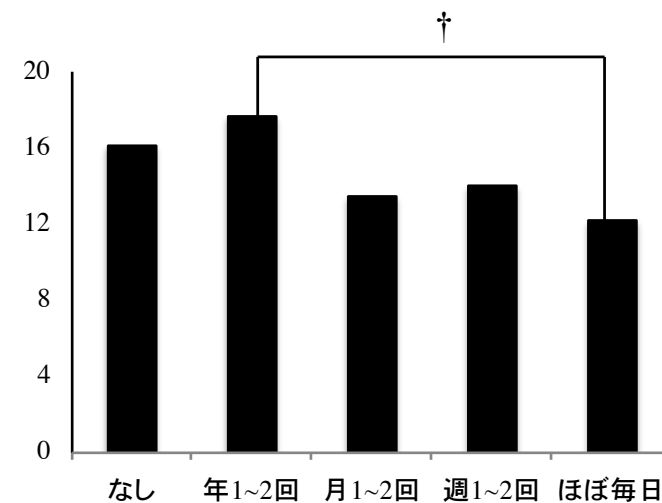
# □□□□と運動遊び・スポーツの実施頻度との関係



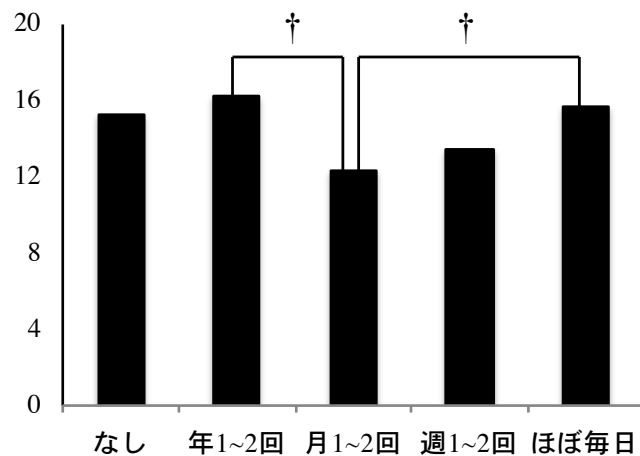
**Lompat Tali**



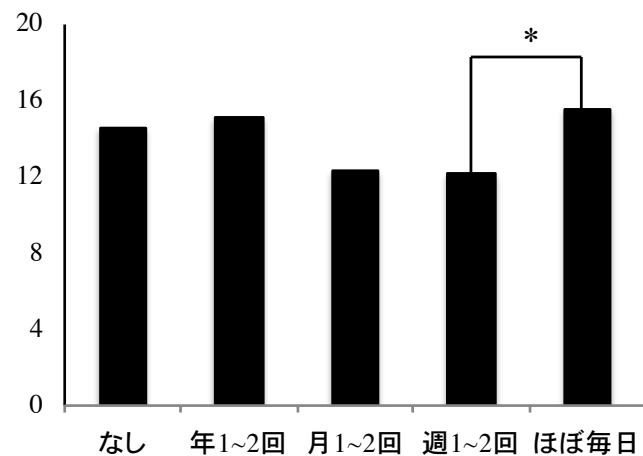
**Fortress**



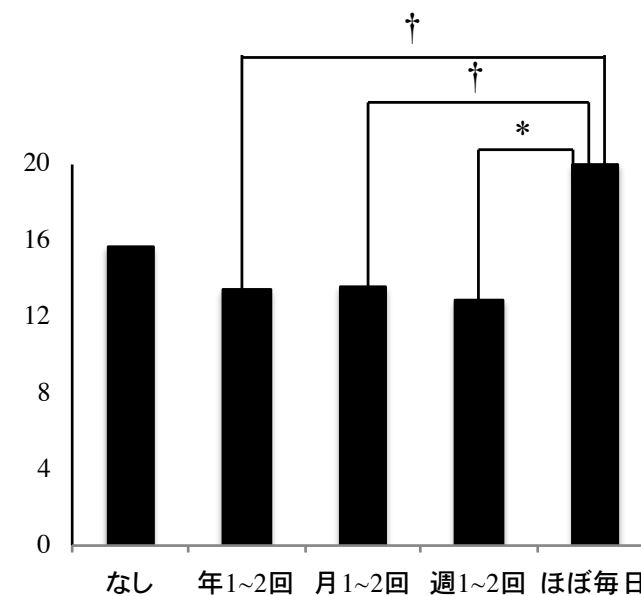
**Petak Umpet**



**バレーボール**



**自転車**



**スイミング**



# まとめ

- 伝統的運動遊びのGobak Sodor, Enggrang, Kasti, および, 現代スポーツのバスケットボールでは, 実施頻度と各心理変数との有意な関係は認められなかった。
- ○○○○○○○○○, および, △△△△△△△△については, 一部の種目で, 実施頻度との有意な関係性が認められたが, 必ずしも「線形関係」というわけではなく, また, 伝統的運動遊びの優位性も認められなかった。
- ××××××××については, 比較的多くの種目で, 実施頻度との有意な関係が認められ, 概して, 実施頻度が高いほど, ×××傾向が低いという様相が示されていた。一方で, 現代スポーツにおいて, 「ほぼ毎日」実施している者の××××××××が高くなるという傾向が認められた。

付記: 本研究は, JSPS科研費 JPxxKxxxxxxの助成を受けて行われました。